

## 巻頭言

### N I M R A 三十周年に寄せて

阿竹 克人

今回名古屋国際都市問題研究会 30 周年を迎えるにあたり、「まだやってたんですか」という声がちらほら聞かれ、何の母体もない比較的地味な研究会が 30 年も活動を続けること自体非常に珍しいことのようにです。また一方でその声には日ごろあまり目立つ活動をやっていないのではないかと、というご批判も感じられ、片手間にずるずると会長職を預かっている身としては、熱い志をもって始められた先輩諸氏に対して誠に申し訳ない気がいたします。まああまりがんばって拡大路線に走ったり利権団体化しなかったところが 30 年間も続けられた理由かもしれません。と言い訳しつつ、巻頭言としてはこれまで会を支えていただいた、諸先輩、会員、講師ならびに関係者の皆様に熱く御礼申し上げます。

本機関誌も第 6 号となりました。30 年間で 6 号ですので 5 年に一度の計算になります。第 5 号は 20 周年記念で出していますので、10 年ぶりの機関誌になります。その間、何度か機関誌発刊のために原稿を募集した経緯があり、それらの多くはインターネットで公開はされていたのですが、機関誌としては今回はじめて日の目を見た形になりました。原稿をお寄せいただいた皆様にお詫びするとともに、やや執筆から時間を置いた原稿もあることをご承知ください。

現在の N I M R A の活動を簡単にご紹介しますと、基本的に毎月第四水曜日午後 7 時から月例会として会員もしくは外部からの講師をお招きして講演をお願いし、そのあと簡単な質疑応答、9 時から近くに場所を移して懇親会を行っています。講演の内容は狭義の都市問題に限らず健康福祉や治安問題、製造技術からはバーチャル宇宙旅行までかなり多岐に及んでいます。懇親会は 2000 年までは 2000 年会と称して会費 2000 円以内におさまるようにしてきたのですが、2000 年を超えてからはインフレ気味で実質 2500 年会になっているようです。そのほか毎年秋には緑陰講座と称して興味深い街づくりを行っている地方に一泊で出かけ、街づくりに携わって見えるしかるべき方を講師として直接お話を伺っています。かつては国際化、高齢化などテーマを決めて部会を設けて活動を行っていた時期もありましたが、現在では通年でおおまかなテーマを決めて活動しています。詳しくはこれまでの活動報告をご覧ください。

私自身は N I M R A に参加して何年になるのかまったく定かではありません。少なくとも 15 周年の機関紙に拙文を書いているので、多分 17~8 年になるのではないかと思います。参加のいきさつは、大学の同級生である名古屋市の川口泰男氏（元本会会長）から金山駅南ビルの基本構想のお手つだいを頼まれ、そのときの川口氏の上司が本会の創設者である林清隆氏で、お仕事と抱き合わせで入会を迫られた。（笑）というのが始まりだったと記憶しています。当時は半官半民で、会長もなんとなく官と民から交代で出すような

形になっていたように思います。

20年弱たった今考えると、会員の中に入会当時大きな組織に属していてその後独立し、一国一城のあるじとして成功して見える方がかなり多いことに気がつきます。近頃ベンチャー創業支援をうたった行政組織が多数ありますが、異業種交流ネットワーク作りということでNIMRAは間接的にそういった働きをしてきたのかもしれませんが。結果的に成功されて会を離れていった方も見えますが、お忙しくてほとんど活動には参加されないにしても会員に名を連ねている方も多くみえます。

思えば会に参加した当時はインターネットも携帯電話も（あるところにはあったかもしれませんが、）全く一般化していませんでした。ロシアはソビエト連邦でした。中国の民主化と経済成長もまだでした。消費税も導入前で、日本はバブル経済前夜で、名古屋はタモリの名古屋攻めにめげず、オリンピックショックから立ち直り、デザイン博を企画しているころでした。

今名古屋は万博、新空港などのプロジェクトが成功裏に幕を閉じ、日本で一番景気がよいといわれています。またかつて決して評価が高いとは言えなかった女性も今や「名古屋嬢」といわれてファッションリーダー化しています。これはNIMRA諸氏を含めた中部圏の官民一体の努力の賜物といえると思います。

一方では高齢化が進行し日本は人口減少時代に突入しました。逆に世界では人口爆発が深刻化しています。古い会誌を見ると世界人口は57億などと書かれていますが、おそらく会の創設当時は50億人以下だったのではないかと思います。現在世界人口は65億人を超えているようで、ますます途上国の都市化が進行しています。

資源の枯渇が不安視され一段落といつつも原油高が進行し、テロも深刻化、国際都市問題はますます重要になってきているように思います。NIMRAの月例会のテーマの変遷をみてもその時々を反映して来ました。地球温暖化にともない最近では環境問題がらみのテーマも目立っています。

この30周年を機に名古屋国際都市問題研究会も新たなステージに立って、創設時からの目標である何らかの政策等の提言活動ができるような組織に脱皮できればと思います。気楽な会としての側面も保ちつつ、さらなる関係者のご尽力とご指導ご鞭撻ご協力をお願いしてご挨拶いたします。また本機関紙CDROMを見られて興味をもたれた方、忙しさが一段落された元会員の方、ぜひともまたこの機会に活動に参加して下さるようお願いいたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。